

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

エールとバトン

上天草市立大矢野中学校

三年 藤嶋 花

「今日も学校か、嫌だな。」学校に通っていると誰しも一度はこの言葉を口にすると思います。中学校までは義務教育で、学校に行くのは当たり前だと感じていました。しかし、普通に学校に通い、勉強ができているのは税金があるからです。私たち中学生は一年間に約百六万七千円を一人につき税金から、教育費として出してくれます。また、学校で学ぶための机や椅子、環境設置が整った教室、みんなに配られる教科書もたくさん税金によって支えられています。

私が教育費について調べてみると、「学校に行きたくても行けない子供がいる。」という文に目が行きました。このことについて詳しく知りたいと思い、調べることにしました。すると、世界では学校に行けない子供が、約二億四千四百万人もいることが分かりました。とても衝撃的でした。戦争や災害が起こっているため子供を兵士として戦わせている国や、家が貧しく、子供のときから働かなくてはいけなくて学校に行けないと書いてありました。

また、あるとき、アフガニスタンに住むザーラさんという方の動画を見ました。彼女は、女子中等教育が禁止され、教育が受けられなくなったと語っていました。将来の夢は医者になることだったが、叶えることができず、絶望的で悲しいと頭をかかえていた彼女の姿を、今でも覚えています。この動画を見て私は、学校に行けているのは当たり前的事ではないのと、とても幸せな事と気づかされました。

このように私たちが普段、学校に通うことができているのは、税金のおかげです。また、たくさん税金を私たちに使ってくれているのは、学校で社会にできるように勉強し、大人になつたらたくさんのお金の選択肢の中から自分の人生を選ぶようにしていきよりよい社会を築いていく私たちへのエールとバトンだと思います。この想いに応えられるよう、今、学校に通って勉強ができていたりことや、整った環境などに感謝の気持ちを持って、一生懸命勉強に取り組みたいです。そして、明るい未来を背負っていく、立派な大人になっていきたいと思えます。